

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611510227		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地(088-672-1022)		
自己評価作成日	平成29年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がその人らしい生活ができるよう質の高い支援を目指し、四季の変化を感じて心身の活性化が図られる季節感あふれる行事、職員自らが演出するリハビリ・レクリエーション体操、敷地内の多目的ホールでの様々なエンターテイメント開催、レクリエーションや美しい花や植物等の自然と触れ合える公園や回転寿司店等の外食店等の地域資源へ外出できる機会、野菜・果物の収穫・調理・食事ができる機会を創出をすることを実践している。また利用者・家族の思いを実現可能とする信頼関係作り、利用者、家族、職員間、関係者等すべての方への真心を込めた挨拶、笑顔を中心掛け、明るくて心やすらぐ雰囲気作り、チームワークの取れた職員連携と医療連携を徹底することで、安心、安全、安楽なケアを目指し、地域の中で信頼を持っていただける存在となることに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には、同一法人の運営する医療機関や施設があり24時間対応可能な状況を整備している。医療との連携は、利用者や家族の安心につながっている。認知症ケアに対する情熱を持った理事長や管理者、職員が一丸となり、“笑顔、誠実、信頼”の介護理念に基づいた心のもったケアを日々実践している。自治会に加入し、老人会で認知症ケアの啓発に努めたり、実習生や研修生も積極的に受け入れたりするなど、相互の地域交流も盛んである。法人は福利厚生にも積極的に取り組み、学び合い、モチベーションアップに繋げている。全職員が意欲をもって働くことで質の高いチームケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき1階		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込み、運営上の方針や目標を具体化した理念を作成し、朝礼時、出席職員全員で唱和することで、共有・認識度を高めた上で、実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げており、毎年、その理念の見直しを行っている。介護理念を朝礼で唱和し、意識付けを行い、職員間で共有しながら日々の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入し、地域の秋祭りには、地域の子供会の神輿、地域の大人神輿がそれぞれ訪問があり、季節感ある地域の行事の舞台として、地域と一体になっている。また地元中学生の職業体験学習で介護現場見学を受け入れしている。	事業所では、自治会に加入し、地域との交流を図っている。日常的に、家庭菜園を地域住民と協働して交流している。老人会で認知症ケアの啓発に努めたり、中学生の体験学習や介護実習を受け入れたりして、事業所の強みを活かした取り組みを実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人生育成の貢献として、実習生の受け入れや、地元中学生の職業体験学習にて、介護現場を見学していただき、認知症高齢者への支援の取り組みを伝え、事業所の実践内容を効果的に伝達している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族、町役場職員、民生委員など地域住民、関係者に参加いただき、行事報告、対策、相談事項を報告・協議し、処遇・環境改善に生かしている。またその内容を全職員に伝達し、サービス全体の質の向上に生かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、保険者、民生委員などが参加し、事業の取り組みの報告や情報交換が行われている。出席者から助言やサービスの意向を出してもらっており、事業所の運営面に反映するよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定申請や入退所連絡票提出の機会、運営推進会議などに、町担当者へ、利用者の暮らしぶりやヒヤリハット書類等の報告で、現状や取り組みを伝え相談し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市担当窓口を訪問し、ケアサービスの現状や困難事例を報告し情報や助言を得るなど協力関係を構築している。市町村担当者から得た助言や意見等をサービスの質の向上に反映している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間帯以外は施錠していない。職員が玄関の出入りにおいて、徹底的な声かけ合い、玄関付近の利用者の動向を確認したり、寄り添って歩いたり、さりげない安全の配慮に取り組んでいる。	年1回、全職員が身体拘束の弊害について理解できるような研修の機会を設けている。家族にも説明し、ともに利用者の自由な暮らしを支えるようにしている。職員は、朝礼時にケアを振り返り、安全面に配慮しつつ、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、ミーティング等を実施、あらゆる虐待項目(言葉、心理的、介護放棄など)の理解度を深め、虐待を防止を視点を習得している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会やミーティング等で、知識の習得できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際には、文書とその内容を懇切丁寧に説明し、疑問点がないか能動的に確認したり、具体例等を交えて、わかりやすい説明を、工夫することに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に、要望を伝えやすい信頼関係を構築することに努めた上で、公的な苦情相談窓口と文章等で紹介している。また玄関の目立つ場所に意見箱を設置し、要望や苦情を出しやすい工夫をしている。	事業所では、意見箱を設置して、利用者や家族の意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議や家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけ、意向を表出しやすいような雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、毎日の朝礼時に管理者や職員と共に検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員とコミュニケーション多く取る工夫をしており、意見を言いやすい環境・状態を作り出している。	管理者は、日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。資格取得の支援を行うなど職員の意欲向上や質の確保を行っている。職員一人ひとりの力量を十分に活かしつつ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、従来通り、職員の資格を給与に反映するシステムを作り、また資格取得に向けての学校や研修会への参加を可能とする勤務調整、金銭支援の体制を構築し、職員個々の努力や実績を評価し、やりがいや向上心を高められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、従来から内外の研修を受ける機会の確保や、外部の良い研修先を探したり、参加のための勤務調整、受講料の金銭支援等を継続しており、職員を育てる体制を構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、研修や訓練を他の事業所と一緒に取り組み学べる機会を作り、スキル、サービスの質の向上させていく努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談からサービスに至るまで、本人の思い、または本人を一番知る家族の思いを受け止めることで、本人の安心が生まれる信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の立場から発生する思い、不安を予測して、意図的に交流の題材とし、きめ細やかに気が付けてくれる安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談から、必要なニーズを見つけ出す視点で、本人や家族との密度の濃い話し合いを繰り返し、ニーズに見合う可能性のあるサービスをできる限り多く説明・紹介することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	談話室のリビング的な視点から、利用者と職員がテレビニュース等、時代劇等のドラマの視聴や新聞情報を共有したり、家事作業を共同したりして、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族とのコミュニケーションを積極的に行い、心情を理解することに努め、家族が目指していることを認識し、具体的実現性の高い支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らしている馴染みの友人、知人の面会等で、現状の能力に対して適切な交流ができるように、職員が間に入って会話したり、環境調整することで、効果的な側面的支援に努めている。	事業所は、利用者の友人や知人の来訪を支援している。利用者のいきつけの喫茶店、理・美容院の利用を支援している。手紙や携帯電話を活用して、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について観察を徹底し、申し送り、ミーティング、記録等で情報共有を徹底し、個々の関係性に適切な支援方法の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関わりで判明した適切な支援方法の情報を明確にし、家族、関係者へ伝えられことを可能とする視点で取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から、意図して深い観察の目を向け、本人の暮らしの中の特性(思い、希望、意向)を明確に認識し、情報共有することに努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、会話や表情に着目し、利用者一人ひとりの意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な利用者には、日々の行動や表情から意向をくみ取り、利用者がその人らしい暮らしを送れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人、知人、関係者等、本人の昔をよく知る人との関わりを深めることで、本人の生活歴等の深い把握ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意図した深い観察の徹底で、判明した訴え、気づいたことを記録し、毎日のミーティングで話し合い、現状の把握に努め、職員間で情報共有することを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズの把握、課題の抽出を、本人、家族、関係者との信頼関係を構築することで深く行い、全職員の徹底した観察と合わせて、実現性の高い課題作りに努めている。	事業所では、利用者や家族の意見や要望を大切にしながら、主治医、関係スタッフのチームにより、利用者のよりよい暮らしのための介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行っている。3か月に1回、利用者の心身の状況に応じて、ケアプランの見直しを行うなど柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとのケア記録に、利用者の実態を捉えた、重要な観察点を入れることを徹底し、職員間での情報共有を質を高め、実用性のある介護計画作り見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人か家族の状況について、信頼関係を深めることで、要望、申し出に対して受け身でなく、提案・介入型のサービスの実践への取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域子ども神輿、大人神輿、民生委員、田圃パークや植物園、回転寿司店での外食等の地域資源の活用、地域の中学生の職業体験学習の受入の継続で、地域資源とのつながりを太く強いものにしていくことに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、馴染みの医師による行き届いた医療の継続が基本とするが、状況に応じて、医師と医師、医師と事業所が連携できるように関係を築きながら、適切な医療が受けられる支援に努めている。	事業所では、協力医療機関に限定せず、利用者や家族の希望するかかりつけ医や認知症専門医院での医療を受診できるよう支援している。必要に応じて、受診時の付添いや情報提供を行っている。複数の医療機関と連携を図り、利用者や家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや徹底した状態把握の観察結果をベースに、連携担当看護師や協力病院との連携の徹底で、適切な診察や看護が受けられるような支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	徹底した観察結果の情報を入院・退院する病院への報告と関係者との話し合いを徹底し、入院後、退院後の方針が明確にすることができるよう病院関係者と関係作りを努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方を家、早い段階で家族と話し合い、家族の考え方の把握に努め、事業所で可能なレベル対応と擦り合わせし、あらかじめ具体的な取り組みを決めておくことに努めている。	事業所は看取りの指針を作成し、利用者や家族に説明している。利用者の心身の状況に応じて、利用者や家族の意向を確認のうえ、かかりつけ医や関係者と相談し、対応方針の共有化を図っている。地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティング等で、救急時の対応方法の実践訓練、マニュアルの配備、内容の理解度を高めることで、実践力を強化することに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練（昼間想定、夜間想定）や防災センターにて火災・地震等の防災体験訓練することで、防災対応能力を身につけている。非常ベルと通報装置の連動システムを設置している。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間を想定した避難訓練や、炊き出し訓練を実施している。職員は、防災センターの防災体験訓練に参加するなどして、積極的に対応能力を磨いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の普段からの徹底した観察によって構築された、利用者の人格・個性の理解から、誇りやプライバシーが損なわれず、本人の満足度の高い対応に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの性格や習慣、意見などの生活歴の尊重に努めている。利用者の自尊心を傷つけず、自己決定の場を増やす取り組みを行っている。年1回、プライバシー保護などの研修会を開催し、サービスの質の向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の普段からの徹底した観察によって把握した本人の思いや希望等から、本人らが自己決定しやすい環境・雰囲気やコミュニケーションの構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性への対応を基礎に、集団のプラスの相乗効果を目指しつつ、日ごろの観察で把握した本人らしい過ごし方へ導く支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて、本人の能力、介護の必要度、個性を正確に把握し、本人の希望が実現されるように支援することに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の内容やその関連情報等を食事前、食事中に効果的に伝達して、食事の楽しみを増進させたり、畑の野菜や果物を一緒に収穫、調理することで、楽しみや季節感、また家庭的で健康的な雰囲気を感じていただくことに努めている。	事業所では、利用者と職員で食卓を囲み楽しく食事をとっている。事業所で収穫した野菜を使用したり、利用者の好みや季節感に配慮した献立を作成したりしている。利用者は、後片付けなどの役割分担を担うこともある。家庭的な雰囲気のなか、支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容・形態を検討し、水分量の計量可能なコップをオリジナルで作成し使用したり、電子重量計で適切な量を把握し、健康状態や能力に応じた食事形態や食器やお箸、スプーン等を創意工夫した食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態(自菌、義歯、口腔ケアの自立度、介護が必要な度合い)に対応して、本人の状態にあった適切な方法で支援することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき1階		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援し、それぞれの排泄能力に応じ、おむつ、紙パンツ、尿取りパッド類を最小限の適量での使用とし、排泄能力・排泄感覚の維持向上となるような支援に努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努め、可能な限りトイレでの排泄を支援している。水分摂取を促したり、運動による自然排便を促したりして、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便チェックを毎日適切に記録し、状態の情報共有を職員間で徹底し、食事形態の工夫・変更、リハビリ体操や散歩等の運動、心身のリフレッシュで胃腸の活性の向上に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や健康状態を確認し、個々が快適に入浴できるように支援している。入浴を拒む方は、本人の心の深くにある「清潔で健康でありたい」という願望に届く有効な声かけの工夫をしている。	利用者一人ひとりのその日の希望に応じた入浴を支援している。羞恥心や不安感を取り除くため、同性介助を行い、プライバシーに配慮した支援を実践している。入浴を拒む方には、時間帯をずらして声かけを行うなど、本人が納得して気持ちよく入浴することができるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は離床生活で、心身共に活動的な生活で昼夜逆転の予防と、夕食後から就寝までの心身の安静支援を、一人ひとりの個性に応じて、会話したり、テレビを見たり等、個別に対応することに努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師との連携の強化と職員の薬に対する知識の強化の中、利用者の徹底した状態観察、薬剤師による居宅療養管理指導を活用して適切な服薬支援に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの個性・能力によって、適性のある家事作業の共同や芸術的創作活動で、意欲的で心身の活性度の高い生活を支援することに努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、回転寿司店等での夕食、植物園、田園パークの桜の花見や、みかん・柿狩り、ゴーヤ、大根等の農作物収穫の外出を楽しんでいただいている。また、家族や友人・知人とも外出できるように連絡調整、車いす、歩行器等の器具貸出で支援している。	利用者一人ひとりの希望に応じて、お墓参りや買い物に出かけている。月1回は、利用者全員で遠出をしている。家族や知人の協力を得て、歩行困難な方も車いすを利用して参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭トラブルを発生させない配慮の下、金銭管理能力に応じて、本人の生活の満足感の質の向上も検討し、小銭の所持等の程度を家族と相談調整している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に電話や手紙、年賀状等のやりとりが気軽にできるように支援し、家族、社会とのつながっている満足感を感じていただけるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、季節感ある飾り付け、行事写真の掲示等で安らぎと楽しさのある空間づくりで、居心地のよい場となるように工夫している。またカーテン、窓の明け閉めの適切な管理の徹底で、光と空気の入りで心身のリフレッシュ感を作り出すことに努めている。	事業所内は、清掃が行き届いており、清潔な環境となっている。共有空間には、季節の花が飾られたり、利用者が制作した作品が展示されたりしている。残存機能に配慮した手すりや洗面台の設置など、ハード面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、テーブル、椅子、ソファ、大型TV、DVD機を適切な位置に設置したり、気の合った利用者同士また個性に応じたテーブル・席の配置で、複数でもひとりでも楽しく落ち着いて過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、寝具、テレビ、ラジオが設置されるようにし、本人が自分らしく落ち着いて過ごせるように支援している。またADLに応じた転倒予防等の安全性を考慮したレイアウトに努めている。	利用者が居心地良く過ごせるよう馴染みの家具や写真等使い慣れたものを持ち込んでもらっている。また、安全面に配慮した家具の配置を行い、安心して過ごせる居室づくりを実践している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の意図した徹底した利用者の徹底した観察によるケア記録の職員間情報共有で、本人の個性・能力・趣向に応じた、目印・ネームプレート、設置物のレイアウトを行い、自立支援と安全性の確保に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込み、運営上の方針や目標を具体化した理念を作成し、朝礼時、出席職員全員で唱和することで、共有・認識度を高めた上で、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元の子供会の子ども神輿、大人神輿の訪問があり、ハッピー姿の子供・大人たちとの交流で秋祭りの雰囲気を出している。地元板野中学校の職業体験学習の受け入れを行い、介護現場の見学を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の為に貢献として、介護実習生の受け入れや地元中学職業体験の介護現場の見学をして頂き、認知症を発症された方への症状に対する理解や対応の実践内容について伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族、役場担当職員、民生委員など地域住民、関わりのある方に出席を頂き、行事報告、入退所報告等現状の活動内容について報告し、ご意見や要望を頂いている。またその内容について職員間で協議して、今後のサービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定申請や入退所報告書の提出、運営推進会議等に、ヒヤリハット報告書類で、事業所の実情や取り組みについて伝え、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできる機会を阻害しないよう玄関ドアは夜間帯以外施錠していない。転倒事故等安全に配慮し、出入りにおいて職員が、声掛けを行い利用者の動向を確認したり、さりげなく寄り添い歩くことで転倒事故防止に配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、研修会ミーティング等において虐待行為(身体的、言葉、心理的、介護放棄等)について理解を深めている。利用者や家族間や事業所内において虐待行為が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会やミーティングで、知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、文書と口頭によって十分な説明と理解に努めている。分かりにくい点、利用者や家族の不安や疑問点について分かりやすく説明を行い理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、意見や要望が自由に表せやすいよう信頼関係を構築できるよう努め、公的な苦情相談窓口を口頭と文章等で紹介している。玄関ホールに苦情を受けられるよう意見箱を設置し苦情を出しやすい環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員とコミュニケーションを多く取る機会を設け、職員一人ひとりの改善意見に耳を傾けて現場の運営に反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の資格を給与面に反映させる仕組みを作り、職員個々の努力実績、勤務状況を把握して、やりがいや向上心と誇りを持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、出来るだけ多くの職員に事業所内外の研修を受ける機会が得られるよう、勤務調整、受講料の支援など人材育成の体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、研修や訓練を他の事業所と一緒に取り組む機会を作り、スキルアップ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談からサービスに至るまで、本人の思い、ご本人を知る家族の思い、不安なことや要望等を傾聴し、安心の確保に努め信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の立場から発生する思い、不安を相談する家族等の立場に立って、これまでの生活歴、困りごと 不安なことについて耳を傾け良くお聞きして、良好な信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談から、必要なニーズを見極める視点で、本人、家族を中心に医療、リハビリと連携を取りながら話し合い、必要なサービスを多く説明・紹介を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	優しい言葉温かい笑顔でコミュニケーションを図り、好きな時代劇ドラマ歌番組を観たり、洗濯たたみ等家事を家族的な雰囲気を作り、共に支え合う関係づくりを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族とのコミュニケーションを積極的に行い、本人や家族の思いに耳を傾け、家族が目指していることを把握し、家族の思いが実現できるよう努め、共に支え合う良好な関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで地域で暮らしてきた馴染みの友人・知人の関係が途切れないよう、面会の機会が得られるよう支援している。現状の能力に対して、温かい交流が適切にできるよう職員がサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は談話室で職員がコミュニケーションを取りながら、仲良く食事をしたり洗濯物たたみ等役割分担をするなど、良い人間関係が築くことができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関わりで判明した適切な支援方法について適切に情報提供し、家族、関係者に相談や支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の利用者とのコミュニケーション等からよく観察し、本人の暮らしの中の思いや希望、意向を理解し、情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしに関わりの深い家族や、友人、関係者等の関わりを深めることで、本人の生活歴等の深い把握ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の深い観察の中での気付いたことをケア記録に記録し、毎日のミーティングの中で話し合い、現状の把握に努め、職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い生活の質を向上させていくための課題について、本人、家族、職員 医療関係者等と話し合い、日々の観察を分析しながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察の中での職員しかわからない事実、ケアの気づき等について、そのまま観察記録に記入し、職員間医療関係者等と情報の共有をして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が家族の状況について、信頼関係を高めることで、要望、申し出に対して利用者の変化課題に応じて、既存のサービスに捉われず、できるだけ必要なニーズに応じて必要なサービスが柔軟に提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子ども神輿 大人神輿、民生委員 回転寿司店 バラ園等 多様な地域資源を活用しながら、安全で心豊かな暮らしができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による行きとどいた医療の継続が基本とするが、状況に応じて、医師と医師、医師と事業所が連携ができるよう関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや状態の把握の観察結果を基に、連携看護師や協力病院との連携の徹底で、適切な診察や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院が必要な際、安心して治療出来るよう本人のストレスや負担を軽減する為家族と相談し、またより早く退院ができるよう、病院関係者と連携を重視し、情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、本人家族の意向、意思を尊重し、納得した終末期を迎えられるよう随時確認をしながら、取り組んでいる。終末期のケアについて研修会を開いて、緊急時に迅速に対応ができるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は心肺蘇生術、AEDの取り扱い手順等について定期的に院内勉強会で学習、訓練をし緊急時に慌てず適切な行動が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回以上の防災訓練(昼間想定、夜間想定)や防災センターにて火災・地震等の防災体験訓練することで、防災対応能力を身につけている。非常ベルと通報装置の連動システムを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が尊厳の保持、利用者本位、プライバシーの確保について確認し合い、一人ひとりの誇りとプライバシーを損ねないよう満足度の高い対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の場面、行事に参加等、利用者に対する観察により把握した思いや希望から、自己決定しやすい環境・雰囲気やコミュニケーションの構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、利用者さん一人ひとりの個性への対応を基礎に、その人らしい過ごし方ができるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについて、日頃の観察から、本人の能力個性等を把握し、その人らしさができるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しいものになるよう雰囲気づくりに努めています。畑で収穫した季節の野菜や果物を一緒に収穫し季節感を感じていただくための雰囲気作りをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療と連携の下、利用者ごとの状態に応じた食事形態を検討し、提供している。食事記録表を記録し、日々一人ひとりの食事量水分摂取量を把握し、必要な水分 栄養が摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎、感染症の予防のためにも、自立度に応じ適切に口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持ができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるよう支援し、それぞれの排泄能力に応じ、おむつ、紙パンツ、尿とりパッド類を、必要最小限に使用し、排泄自立度が維持向上となるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄記録表や食事記録表を記録し、職員間で状態の把握情報共有をし、牛乳等こまめに水分補給や、食物繊維を多く含む食品をバランスよく摂取ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本位で、体調を考慮しながら、楽しくコミュニケーションを取りながら、気持ちよく入浴ができるよう支援している。冬場は、脱衣室の保温に努め、浴室の整理整頓に努めるなど安全かつ快適に入浴出来るよう環境整備に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の予防と夜間安眠が得られるよう、基本は昼間離床して過ごしていただき、体操やレク等行い、夕食後から就寝までの心身の安静が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師との連携の強化と職員の薬に対する知識の強化の中、利用者の徹底した状態観察、薬剤師による居宅療養管理指導を活用して適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に楽しみや張り合いが得られるよう、洗濯物たたみや食事前のテーブル拭きなど一人ひとりに合った役割や楽しみで気分転換が得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	張り合いや楽しみが得られるよう、花見やバラ園みかん狩り 回転寿司店等外出ができるよう支援している。また、ご家族等が外出を希望される場合も、車いす、歩行器等の器具貸出で、安全に外出ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭トラブルを発生させない配慮をして、金銭管理能力に応じて、本人の生活の満足度の質の向上も検討し、小銭の所持等の程度を相談調整している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に電話や手紙、年賀状等のやり取りが気軽にできるように支援し、家族社会とのつながっている満足感を得られるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や談話室に季節感のある写真や絵や花行事写真をなど飾り、居心地の良い空間づくりをしている。またカーテン窓の開け閉め適切な管理で、光と新鮮な空気入れ替えで心身のリフレッシュができる空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、テーブル、椅子、ソファ、テレビ配置を工夫するなど、気の合った利用者同士でもひとりでも思い思いに落ち着いて穏やかに過ごせる環境整備ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた馴染みの家具やテレビラジオが設置されるようにし、本人が自分らしく落ち着いて過ごせるよう支援している。	居室には、本人やご家族と相談しながら、使い慣れた馴染みの家具やテレビラジオが設置されるようにし、本人が自分らしく落ち着いて過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の利用者の観察によるケア記録による、職員間の情報共有し、ご本人の個性・能力動きを把握し、目印・ネームプレート、設置物の配置を行い、自立支援と安全性の確保に努めている。		